

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号588号

発行 令和3年3月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

「ふきのとう文庫活動五十年」にかかわる「雑談」

公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉嗣昌

来館の方々や外部の方々へ機会ある毎にお配りしている当文庫PR用のリーフレットの中に「ふきのとう文庫のあゆみ」の欄がありますが、その最初の頃には「一九七〇、小林静江宅に子ども文庫を身体障がい児専用とする」とあります。

これは当文庫活動当初の十五年の歩みをまとめた記念誌「春を呼ぶふきのとう」の資料編「日誌」部分の冒頭に同様の内容が綴られているのですが、創設者小林静江はその一方で、一九七三年十一月二十七日の欄には「小樽市立病院小児科プレイルームにふきのとう文庫が第一号開設。文庫の名は「厳しい冬を耐え抜いて第一番に雪の下から芽をふくふきのとうにちなんで命名」としており、別の頁では「この日をふきのとう文庫の誕生日としている」と書いています。

本来ならばこの創設者の意志を尊重して発足を一九七三年とすべきなのでしょうが、あえて一九七〇年としたのは、今日までつづく当文庫のバリエーション図書館を目指す活動理念はそれ以前に定められていたと考えたからです。

東京の大手出版社で児童図書編集の任にあった小林静江が長年子ども文庫の開設を夢見て来ましたが、一九六六年に東京の自宅の一室を開放する型で実現させました。一九六九年に配偶者で北海道新聞の記者であった小林金三さんの北海道転勤に伴いこちらに来ると、早速子ども文庫を江別市の自宅に開きました。その段階ではごく一般的な子ども家庭文庫の型だったのですが、その翌年若くして病魔に襲われ通学もままならない中、長年本を点訳し視覚支援学校などに寄附する活動に取り組んで来られた妹さんがついに他界するという出来事に遭遇したことが大きな要因となり、開いている家庭文庫を心身に障がいを持つ子ども専用としたのです。

これは当時大変ユニークで先進的な活動であり、このことが障がいをもつ子どもが来て一般の子ども達と分け隔てなく人に接し、本に親しんでもらうという今日のふきのとう子ども図書館の目標に結びついています。

又、先述の小樽市立病院小児科でのふきのとう文庫開設に至るまでの経過を見ると、多くの辛苦を乗り越えるうえで、理念やそれに裏付けられた実践的な活動がなければ実現できなかったことです。その点を重視すれば、一九七〇年の「方向性の決定」こそ原点ではないかと考え、創設者の意志を飛び越える型で歴史の始めとしたのです。

それにより、二〇二〇年が「ふきのとう文庫活動五十年」として位置づけ、いろいろな事業・行事を計画していたのですが、予期せざる「コロナ禍」に会い、計画の一切が延期の型になってしまいました。

しかし年度が替わっても「コロナ禍」の出口は見えず、計画実現に当たってくれるボランティアの方々も個人的に活動を休止なさる方が少なからずおられることから、日常活動に加えての取り組みはごく限られてしまい、その実施は大きな制約の下にあります。

例えば記念行事の中心であり、当文庫の最大の特徴を発揮できる「特別展示会」開催の具体的日程を示すことができず、それとリンクした記念式典などはなおさら困難です。

札幌市中央区に移転して丸七年を経過し、図書館としての日常活動が定着した反面、マス・コミなどに注目される機会が少なくなりがちの中、当文庫の存在を再認識してもらういい機会でしたが、大変残念なことです。

今のところ、ホームページやネット配信を通じて他は印刷媒体で知っていたただくことに注目しておりますが、具体的にはこの文庫だよりの記念増頁が一番実現性が高い事項です。五十年記念誌の出版は是非取り組んで行かねばなりません、編集委員会の設置すら具体化されていない状況です。

「コロナ禍」の終息が遅れば、いつそのこと、一九八二年に開館した「ふきのとう子ども図書館」の四十周年記念事業に移行した方がいいのかもしれない。誠に悩ましいことです。

令和三年度の事業及び収支計画について

一、事業活動については、昨年からの新型コロナウイルス騒動が増幅し、ほとんどの事業が十分のままで経過しましたので、本年度も昨年同様の計画を引き継いでいきます。

二、令和二年度の決算予想ですが、全国的に事業活動が縮小された状況でした。収入面で賛助会費・寄付金とも順調に推移し、決算時は百万円ほど収入増が見込まれます。

来年度は厳しい予算計画を立てましたが、若干の赤字が見込まれそうです。それについては今年度の繰越金の一部を充当する予定です。

令和3年度予算（令和2年度予算併記）

単位 千円

	令和3年度	令和2年度
賛助会費	2,600	2,300
寄付金（新規助成金を含む）	3,000	3,000
既存助成金	1,500	1,500
事業収入	1,600	2,500
雑収入		
収入合計	8,700	9,300
管理費	5,830	5,681
事業費	3,100	3,500
支出合計	8,930	9,181
収支差益	▲230	119

令和3年度事業計画

- 一、子ども図書館の運営
- ①子ども図書館の整備と貸出し
- ②病院文庫の拡充検討

- ③貸出し本の未返却防止作業継続
- ④子どもたちとの交流を大事に
- 二、布の本の製作
- ①貸出し用・販売用の布の本・遊具の製作
- ②布の本・遊具の材料セットの製作
- ③既存布の本の修理
- ④病院内の図書コーナーへの貸出し・寄贈
- ⑤布の本購入先からの依頼による修理・修復
- 三、拡大写本の製作
- ①拡大写本の製作と貸出し
- ②弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈
- ③拡大図書の視覚支援校への配本
- 四、子ども催事業
- 別紙日程表（次ページ予定表）
- 五、布の本・拡大写本等の普及活動
- ①製作講習会の開催（布の本のみ）
- ②ふきのとう文庫ホームページの活用
- ③ふきのとう文庫パンフレットの作成活用
- ④多目的室での展示会の開催
- 六、ボランティア研修
- ①現地施設等への実態見学
- ②経験者の新人指導
- 七、機関誌の発行
- ①ふきのとう文庫だよりの発行（年三回）七月・十一月・三月
- 八、賛助会員の拡充
- ①賛助会員の拡大募集（機関誌・展示会・イベント・来館者）
- ②賛助会員拡大のための協力依頼（現、賛助会員）
- 九、ふきのとう文庫、活動五十周年記念行事
- 活動範囲を検討し、実行する。

子どものためのもよし

昨年来すべてのもよしは中止されていましたが、今年に入って一月十七日に「おはなし会」を行いました。感染症対策のため六組限定でしたが参加されたのは二組の親子でした。まだまだ、新型コロナウイルスの影響は消えていません。

最初にお手玉を使ってお供えもちを作りました。♪まるめて♪まるめて♪どんなおもちゃができるでしょう！読み聞かせでは「たぬきのおもち」「たまごのえほん」です。大型絵本は大人気の「だるまさんが」。子どもたちもだるまさんと一緒に「どてつ」。二月二十一日の「おはなし会」は四組でした。

来年度は三十以上のもよしを予定しています。「おはなし会」は毎月開かれますが、「うたう会」は大きな声で歌うということが出来ず、「楽器で楽しもう」という企画に変えてピアノやフルートの演奏など交え一緒に遊ぶことをメインにしています。その他、アコーディオンの演奏会や腹話術の会も予定しています。また、子どもたちに人気の「手づくり遊び」も復活です。

これらのもよしは順調に開かれ、更には「うたう会」が出来るとな環境を一日も早く取り戻したいのですが、社会の動きを見ながら慎重に進めていきたいと思っています。





新しい拡大写本できました。



大どろぼうホッツェンプロッツ ミたびあらわる

プロイスラー 作

昨年来の文庫だより報告からは上記の1冊（作成は4分冊）だけしか作ることができませんでした。

令和2年度の製作総冊数は2月までで73分冊（原本9冊）でした。令和元年が315分冊（原本40冊）なのでかなり少なかったと言えます。今年度は半年間の自粛期間があったことでやむなしと思っています。今後、活動再開で製作予定の本は以下のようなものです。



世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

くさば よしみ 編



世界でいちばん貧しい大統領からきみへ

くさば よしみ 文



天使のにもつ

いとう みく 作



ドラえもん プラス4

藤子・F・不二雄 作



すんだことはすんだこと

ワンダ・ガアグ 作

早く正常な活動が始まって札幌市支援学校への配本や、他の子どもたちの学校へも安心して訪ねることが出来るようになってほしいです。

子どものためのもよおし

予定表

2021 年度上半期

4月18日(日)	おはなし会
25日(日)	アコーディオン演奏会
5月16日(日)	おはなし会
23日(日)	井上美豊子と楽しもう!!
6月6日(日)	腹笑会(ふくわじゅつ)
13日(日)	楽器で楽しもう「ピアノ」
20日(日)	おはなし会
7月11日(日)	手づくり遊び
18日(日)	おはなし会
25日(日)	楽器で楽しもう「ピアノ」
8月15日(日)	おはなし会
22日(日)	井上美豊子と楽しもう!!
9月12日(日)	楽器で楽しもう「フルート」
19日(日)	おはなし会
26日(日)	人形劇

※ 開演時間はいずれも13時30分～



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839

子どものためのもよおし

予定表

2021 年度下半期

10月10日(日)	アコーディオン演奏会
17日(日)	おはなし会
11月14日(日)～17日(水)	10時～16時 木育ひろば
21日(日)	おはなし会
28日(日)	井上美豊子と楽しもう!!
12月12日(日)	楽器で楽しもう「ピアノ」
19日(日)	おはなし会
1月16日(日)	おはなし会
23日(日)	楽器で楽しもう「ピアノ」
2月6日(日)	手づくり遊び
13日(日)	楽器で楽しもう「ピアノ・フルート」
20日(日)	おはなし会
3月20日(日)	おはなし会
27日(日)	井上美豊子と楽しもう!!

※ 開演時間は何れも13時30分～



ふきのとう子ども図書館 TEL 222-4839

図書館の利用状況について

新型コロナウイルスの感染拡大で当図書館の開館もかなり狭められた状況になっていました。令和二年三月から休館になり、四月は六日間開館しましたが、またすぐに休館となりました。六月からは平常に戻りましたが閲覧のみで本の貸し出しは中止にしていました。七月からは貸し出しも通常通りとなり現在に至っています。

令和元年度の年間の来館者数と令和二年度を比べると、元年の月平均来館者数は八百十人で、二年は四百五十四人と半分ほどになっています（令和三年一月末調べ）。一月の開館日数はほぼ同じですから、やはり不要不急の外出を控えたせいでしょう。しかし、一日平均の貸し出し本の数はあまり変わらず、一人が多く借りていったことが分かります。ステイホームで家にいる時間が長くて、その間に本を役立てたのだと思います。

図書館の滞在時間も短めになっていたようで、図書館内はまばらで、いつものような元気な子どもたちの声が聞こえることが少なかったようです。

この一年間は多目的ホールで行われる「うたう

会」「おはなし会」「手づくりあそび」もほぼ中止となりましたが、新年度は徐々に復活して行きます。

こんな状況の中、利用者みなさんはどんな思いでいるのかを知りたく思っていました。そして今回、利用者の浅川さんが、ふきのとう子ども図書館との関わり、読書の傾向などについて語ってくれました。運営する側としては大変参考になり、またこれからも頑張っていこうと思わせる貴重な感想です。様々な人が集まり本と関わっている場所ですが、これからはもっとみなさんのニーズを把握・理解してより良い図書館としていきたいと思っています。

令和2年 (1月末)	総 数	月平均	一日平均
開館日数 (日)	131	15	—
利用者数 (人)	4,086	454	31
貸し出し本 (冊)	14,129	2,018	108

令和元年	総 数	月平均	一日平均
開館日数 (日)	187	17	—
利用者数 (人)	8,905	810	48
貸し出し本 (冊)	26,531	2,412	142

コロナ禍の空

札幌市 浅川ゆか

新型コロナウイルスの言葉を聞く様になってから、私はどのくらい空を見上げただろう。好きな時に外出もできず行動は制限され、人と話しをすることもためらう不自由な生活に気が付けば一年が経とうとしています。

このような生活でも私がコロナ前と変わらずにしていることは、子供たちが使っていたベビーカーを押してふきのとう文庫さんに本を借りに行くことです。

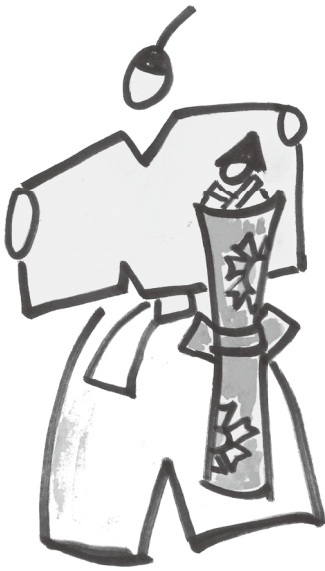
子供が赤ちゃんの頃は『いないいないばあ』や『こんなこいるかな』や何度も借りた『タンタンシリーズ』などの薄くて小さな絵本、少し大きくなってからは『内田麟太郎さんのともだちシリーズ』や『いいからいいからシリーズ』や『としょかんねずみシリーズ』と少し文字数が増えた絵本になりました。

最近では子供たちの好きなことや興味があることがはつきりしてきて『おしりたんていシリーズ』や『かいけつゾロリシリーズ』また『恐竜』や『星座』の図鑑を借りることも増え、ホームス

テイが囁かれるコロナ禍でも厚い本が読める様になり成長を感じています。子供たちはベビーカーを卒業しましたが重たい本を持ち歩くのは困難なのでベビーカーは今でも私のお供になって足を運んでいます。

その中で親子で出会えた本があります。二〇〇八年に有限会社エアードライブさんから自費出版されたドキュメンタリー漫画『義男の空』全十二巻です。

北海道に実在する小児脳神経外科高橋義男医師がたくさんの患者さん・そのご家族とどう病氣と向き合ったか、そして高橋先生の幼少期はどう育ったかの話が一冊に平行して書かれているとても読みやすい漫画です。



小学校低学年の上の子は『一度読むと止められない!』と言いながら難しい専門用語も読んでいて、泣いたり笑ったりしてあつという間に読み終わってしまいます。

幼稚園児の下の子はまだ字が読めませんが絵を真剣に見て内容を覚えて私たちの会話について来ようとしているところが可愛いです。私も釣られて読み始めた漫画ですが読み進めていくと、私も小学生の頃にお世話になった病院がモデルになっていることがわかり驚きました。私は眼科でお世話になったんですが、眼科の先生が判らず脳神経外科の先生が気付いてくれたので、当時のことを思い出しつつこの漫画に夢中になりました。

高橋先生は周りの医師が難しい顔をして、少しでもできることがあると『チャレンジしよう』と一緒に向きあっている姿が印象的でした。『治ることは難しくても、今よりは良くなる可能性が1%でもあったらそこに賭けて一緒にチャレンジしてみよう、それでやってもダメならお母さんの手の中に帰すから』の言葉が胸に刺さりました。この病院を退院してからも私は怪我をすることが多く、成人してから大きな怪我をして今では後遺症が残りましたが時間はかかっても『今日で



きること』を積み重ねてたくさんの方に救われた命だと思っています。もし、興味がありましたら図書館で探してみてください。この漫画はどこどこ破れていてボランティアさんが直してくださっていますが、この本は好かれていて人気があるんじゃないかと思います。そしてこの漫画から心に刺さる言葉に出会ってもらいたいです。

まだまだ自粛することばかりで心が折れそうな時もありますが、私はこの漫画を読んで『まだやる!』と背中を押してもらいました。本は人の心を高揚させる言葉と出会える場所でもあります。がいつも受け身な存在です。こんな時だからこそ私たちが手に取り読んでくれるのを待っている様に思えてなりません。

書棚より

「こどものとも」「かがくのとも」

福音館書店の本



日当たりの良い窓際に「こどものとも」「かがくのとも」と言う雑誌のコーナーがあります。本屋さんであまり見かけない本です。普通の図書館でもなかなかないかも知れません。福音館書店が出版しているものですが、「こどものとも」の創刊は一九五六年でもう六十五年の歴史があります。福音館書店は百年以上前に、カナダ人の宣教師によりキリスト教関係の図書を扱う書店として金沢で創設されたものですが、戦時中宣教師が日本から引き揚げたのを

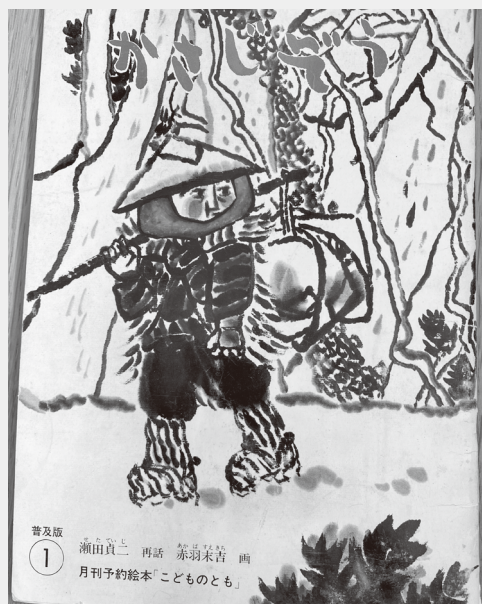
機に日本人に譲渡されました。戦後は出版活動も始めました。「こどものとも」創刊号は与田準一作・堀文子画の「ビップとちようちよう」でした。二号は「セロ弾きゴーシュ」三号は「シートン動物記」と続いています。その後、寺村輝夫、瀬田貞二、加古里子など日本の児童文学を牽引してきた人たちの作品が続きます。いまだに読み継がれているなか、わが国の「ぐりとぐら」も一九六三年にこの「こどものとも」が初出だと思っています。

「こどものとも」は一九六八年に「年中向き」が発刊され、その後、「年少版」「0. 1. 2」（乳幼児向け）が出され、今では就学前のあらゆる子どもたちが楽しめる本となっています。また、「かがくのとも」「ちいさなかがくのとも」、小学校三年生からの「たくさんのふしぎ」という雑誌や保護者向けの「母の友」も毎月出されています。

「かがくのとも」（五〜六歳児が対象）は子どもたちの身の回りのことがテーマです。身近な植物、動物、モノ、現象を、事実の羅列ではなくストーリー性を大切にして伝えています。

季節や成長にあわせたバラエティ豊かな絵本で当図書館ではファンも多く、新しい号が出るたびに借りていく人もいます。

これらの本がバックナンバーも含め、ふきのとう図書館に揃えてあり、いつでも貸し出し可



能です。古いものは一九七〇年代からのものがありますが、六十年代の本の復刊本もあります。この「かさじぞう」は昭和四十一年（一九六六年）の復刊で昭和五十一年に出されました。

福音館書店の本としては、加古里子の「だるまちゃん」シリーズ、せなけいこの「いやだいやだの絵本」、角野栄子の「魔女の宅急便」などベストセラーになったものも刊行されています。また、二〇二〇年十二月に亡くなった安野光雅は一九六八年の最初の絵本『ふしぎなえ』から、シリーズ化された『旅の絵本』まで、多くの作品が福音館書店にあり、多くの人に読まれています。

（図書係 野田）

2020年11月以降賛助会費納入一覧

伊藤 源弥 伊藤 静雄 庵原 律子
 蝦田 佑一 大倉 聡子 柿本 胤二
 上條 尚子 亀井 健二 鯨岡比呂美
 栗原 博子 佐々木勝敏 佐々木扶美子
 笹部 桂 佐藤 香 佐藤 和子
 高下 圭一 竹内 仁美 中多 泰子
 中村 悦子 濱崎 京子 平岡佳代子
 広田まゆみ 福田 都代 三浦 育子
 村田 真理 森永美恵子 山本 千穂
 山本 夏子
 岩見沢友の会
 ちいさなえほんや・ひだまり
 北海道大学病院・芳賀真理子

2020年10月以降寄附金納入一覧

青山 誠 安藤 雅子 逸見 育代
 伊藤 礼子 猪股久美子 井林 秋江
 奥野 和弘 小倉 忍 加藤ゆかり
 金内 隆幸 鎌田 勇一 川波 和芳
 斎藤美年子 坂元 正子 坂元美智子
 佐々木扶美子 小間海多喜子 新谷恵美子
 杉崎 政明 杉下 清次 高倉美枝子
 田中恵理子 中野千恵子 中野 久雄
 藤島 京子 藤田 宮子 三澤 信也
 森 多美子 山内美知子 山口 歌代
 吉野 優子
 (株) NERC 代表取締役・大友詔雄
 (株) 安藤敏郎建築設計事務所

(株) ティアール・代表取締役 佐藤崇人

(株) ハウジング太田・代表取締役 太田勝雄

(株) 恵秋園 永田恵秋

PERISSIA・小山内 恵

株式会社 偕成社

櫻蔭学園生徒会・文化祭企画委員会

生活クラブ生活協同組合

ふきのとう文庫図書係有志一同

藤徳 (株)

ふたご座・畠山珠恵

ラウンジ「わ」・渡辺俊子

2020年11月以降寄贈一覧

11月9日 日本図書館協会 絵本 1冊
 11月13日 のら書店 絵本 1冊
 11月16日 攪上 久子 書籍 1冊
 11月17日 コープさつぽろ 絵本 1冊
 11月20日 童心社 絵本 1冊
 11月29日 久保田 亨 かるた4セット
 12月1日 亀井 雅美 絵本 3冊
 12月2日 伊藤 寛子 ボタン多数
 12月6日 偕成社 絵本 1冊
 12月18日 奥野 和弘 学研プラス 児童書 1冊
 切手多数

12月20日 童心社 児童書 1冊

12月25日 神原 慶子 書籍 1冊

12月27日 童心社 児童書 1冊

1月24日 文藝春秋 児童書 1冊

1月29日 童心社 絵本 1冊

行事一覧

11月13日 (ほっとたいむ)
 11月20日 (ほっとたいむ)
 12月4日 (ほっとたいむ)
 12月16日 運営会議
 12月18日 (ほっとたいむ)
 12月24日～1月9日 年末年始休館
 1月15日 (ほっとたいむ)
 1月17日 おはなし会
 1月18日 運営会議
 1月22日 (ほっとたいむ)
 2月5日 (ほっとたいむ)
 2月19日 (ほっとたいむ)
 2月21日 おはなし会
 2月22日 運営会議



賛助費、寄附、寄贈ご芳名
 ご支援ありがとうございました。

—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

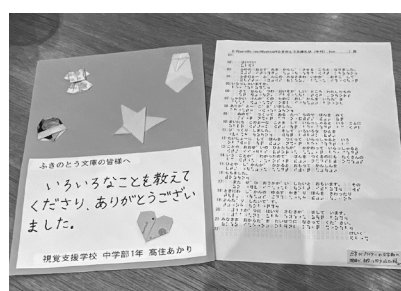
テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット	テキスト No	布の絵本	テキスト	材 料 セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	16	まる	200円	3320円	遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
12	MY BOOK	200円	3320円	17	むし	200円	2230円	遊具	やさいセット(8種)	なし	600円
	このいろなあに		3850円		ちいさいおおきい	200円	3030円	遊具	くだものセット(7種)	なし	500円
13	のりもの	200円	1620円		さかな		1720円		どうぶつとなかよし	なし	1600円
	だれのうち		3320円		わっ!	なし	1720円		おいしいね!	なし	1600円
14	Greeting	200円	3030円		ドレミのうた	なし	5020円		おはな	なし	1600円
	おやつ		1720円	新作	ばあ!	なし	2200円		のりたいな	なし	1600円
15	おかあさん	200円	3030円		どんぐりころころ	なし	4360円		うみのともだち	なし	1600円
	どうぶつ		1820円		おむすびころりん	なし	5560円		とりのなかま	なし	1600円
									どうぶつだいすき	なし	1600円
									とり	なし	1600円

視覚支援学校からのたより

昨年10月に社会見学として当図書館を訪れてくれた札幌市視覚支援学校の中学1年生中村つぼみさんから、心のこもったお礼の手紙を点字のタイプライターで頂きました。

はいけい ふゆのおとずれをかんじさせるころとなりました。ふきのとうぶんこのみなさまはいかがおすごしでいらっしゃいますか。

さて、せんじつはおいそがしいところ、わたしたちのしゃかいけんがくのためにおじかんをいただきありがとうございました。ぬのでつくってあるたべものやほんをみて、まいにちこのようなことをしていらっしゃることにびっくりしました。そして、いろいろなひとをたしようにしてほんをつくっていらっしゃることやおおぜいのひとたちがかわっていらっしゃるということがわかったのではんをつくるにもたくさんひとやじかんがかかるとおもってかんしんをもちました。また、ぜひおうかがいしたいとおもいます。そのときにはじかんのゆるすかぎりほんをさわったりよんだりしたいです。



布の本や拡大写本を作っている私たちにはこれからも頑張っていこうと元気づけられるお手紙でした。

あとがき

毎回、コロナのことをあとがきに書くことが残念だ。徐々に感染者数が減っている昨今だが、気を緩めるとまた感染拡大となるから、今年は花見もままならないだろう。今号では、この一年の動きを報告している。拡大写本グループも活動自粛で製作本の数は半減した。「子どものためのよおし」も年末まで全面中止。図書館来館者も閉館の時期もあり減少していた。ふきのとう文庫開設50周年の記念行事も延期。すべてが停滞していたが、活動が出来るようになってきた。図書館を安心して利用してもらえ環境を整えつつ、利用者の声を聞きながら新しい生活様式にあつたふきのとう文庫としての取り組みを考えて行こうとしている。今後の活動報告に期待して頂きたい。(野)

編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和3年3月10日 発行
毎月10日発行一部100円(維持会費に含む)

昭和48年1月13日 第3種郵便物承認
HSK通巻588号
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。